

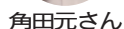


知人から木の器を加工している工場が大阪府の  
日田にあると紹介された  
ことをきっかけに、10  
で皿などに成型した容  
器を、型抜き機械  
で皿の形にカットしたあ  
と、乾かしてプレス機

削らない」を信条に、素顔の貝だけで作り上げた愛らしい動物たちが繰り広げる夢いっぱいの世界「かいのどうぶつえん作品展」が8月24日まで葉山町立図書館で開かれている。

夏休みの展示は16回目で、大型ガラスケースに収められた作品は約120点。絵本や物語からの題材、昆虫や動物、国宝絵巻「鳥獣戯画」シリーズは狂巻の力作。

作者の角田元さん（78）は葉山在住、20年以上前から地元の海で拾った貝に魅了され、貝がらで作った動物の作品を、毎



## 葉山

器。日本の森林資源の活用と使い捨てプラスチック容器の代替品とするこ  
とで、プラごみ削減につ  
ながる。游風では使用済  
みの和器を回収して灰や  
チップなどにする取り組  
みも行っている。

しかし、2023年に  
日田の工場の経営者が亡  
くなり、製造がストッ  
プ。竹林さんらは、翠牟  
和器を使い続けられない  
かと日田の工場に行っ  
て談判し、機械を借りて、  
使い方を習い、普及活動  
も行った。今年5月には、  
なんとか自分たちで製造  
できるめどがたった。毎  
月工場に通って製造を続  
けている。

角皿のほか、丸めて底  
をつけてわっぱにした  
り、両側を糸で結んで舟  
形にしたりして、さまざ  
まな形をつくっている。  
接着剤を使わず、一枚板  
で加工するのが特徴。焼  
き印入れは多機能事業所  
などで行っている。

和器はプラスチック容  
器に比べて製造コストが  
数倍かかるが、寄付を集  
めて和器の販売価格を抑  
えている。

生産を軌道にのせて販  
路拡大につなげようと提  
出した申請がとおり、地  
球環境基金、郵便局から  
いずれも3年間の助成が  
決定した。

游風の竹林さんと理事  
長の渡邊公子さんは「国  
産木材の利用が増えれ  
ば、植え替えられた若い  
樹木が森林の二酸化炭素  
吸収量を最大化し、地球  
温暖化防止もつながる」  
と話す。「和器を使うこ  
とで自然環境の現状に目  
を向けてもらえたら」と  
期待を込めた。

8月30・31の両日鎌倉  
駅前のMUSEUMで游風  
主催のイベント「木にふ  
れて！あそんで！まなぼ  
う！」。和器の展示、か  
まぼこ板の端材で遊んだ  
り、工作したりできる。  
森林組合の仕事も紹介。



リハバと40人の盗賊」で千夜一夜物語の世界観を表現する1000回目的の作品を発表。美しい貝だけでなく、割れていても不格好でもいつか来る出番を待つ貝たちに無限の可能性を見出してきた。

貝から『この動物になりたい』という声が聞こえた時にはすぐに作品ができる。皆さんの反響、とくに子どもたちの声がうれしい」と話す。今後は昨年から始めたWEB上の発信ツール「Note」に力を入れ、製作裏話

モアで対抗した作品が注目され、海外の貝類学専門サイト『Conchology』のニュースページにも掲載された。

これまで1度も休まず作品を生み出してきた角田さんは、6月14日に「ア

多く取り上げられた。  
コロナ禍では「アマビ  
エ」を製作。感染症にユ―



先月末、鎌倉市  
内で水道管が破裂

